

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第38号

発行年月 2019年9月
発行所 岡山県訪問看護ステーション
連絡協議会
〒700-0805 岡山市北区兵団4-39
岡山県看護研修センター3階
TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
http://okayama.houmonkango.net/
E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
発行責任者 江田 純子

訪問看護の未来を見据えて



一般社団法人
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
会長 江田 純子

会員の皆様には、協議会活動の推進に対して多大なご協力ご支援をいただき、令和元年度事業も順調に進んでおりますことを御礼申し上げます。

本年度は六重点事項（協議会の組織力強化、訪問看護師の人材確保・定着、訪問看護師の資質向上、訪問看護のネットワーク強化、多職種との連携強化、災害に関する連携体制の強化、さらなる訪問看護の普及・啓発）を挙げ、研修会・交流会・出前講座・普及啓発等の事業や活動を実施しておりますので、ご活用ご参加いただきますようお願いいたします。

さて、地域包括ケア推進

のため、地域の実情に即した、しかも未来を見据えた訪問看護の在り方を考える必要があります。四月の当会調査では会員の訪問看護師数は約九百人であり、二〇二五年に向け六百人（みなし訪問看護含む）が不足しており、人材確保・定着は喫緊かつ最大の課題です。そこで、岡山県看護協会では「訪問看護総合支援センター（仮称）」設置に向け、本年度から訪問看護ステーションの多機能化、大規模化に向けた事業連携を中心とした試行事業に取り組みます。当会も協働し推進してまいりますので、会員の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

ステーションからのリレーだより

訪問看護ステーションさくらんぼ

管理者 明石 未矢子

訪問看護ステーションさくらんぼの歴史は20年以上と長いですが、昔から“理念、方針”は変わらず、今でもぶれることなく、利用者1人1人の尊重、尊厳、平等、健康を守る、そして安心、安全に医療、介護が受けれるようスタッフ全員、日々訪問しています。

また、ステーションのモットーとして「断らない、断られないステーション」を心がけています。

そう心がけることによって、スタッフも何をして何が必要かを自然に考え行動できるようになっています。

時代は「平成」～「令和」となり、めまぐるしい日々となっています。一層少子高齢化時代に拍車がかかり、ますます看護、介護の手は必要になってくることでしょう。

そのような時代の中でも、理念、方針はぶれる事なく、看護介護に手を抜くことなく日々過ごしていきたいです。

今後とも、訪問看護ステーションさくらんぼをよろしく願います。

あさがお訪問看護ステーション

管理者 杉原 美由紀

当ステーションは、平成20年4月1日に開設しました。病気や障害をもった方々が、その人らしく、住み慣れた地域やご家庭で、生活のすべてに向き合おう看護を目指しています。

今まで数人のご利用者様の結婚式に看護師として、同席させていただきました。そのうちお一人は、お孫さんの結婚式を楽しみにされていましたが、出欠に関し家族の中でも意見が分かれていました。在宅療養のなかで、家族と過ごした時間が意味のあるものになってほしいと、ご家族と一緒に話し合い、結婚式に無事に出席する事になりました。当日は、今までにない笑顔で楽しいひと時を過ごされました。

これからも、ご利用者様・ご家族の笑顔があふれる在宅生活を支えていける様に、スタッフ一同頑張っています。

賛助会員 からの メッセージ

「この10年をふりかえって」

つばさクリニック 中村 幸伸

岡山県で在宅専門の診療所を立ち上げて10年が経ちました。当時から県下にはたくさんの方の訪問看護ステーションがあり、診療範囲のほとんどのステーションと連携をとってきました。10年前をふりかえると24時間対応でなかったり、重症小児の看護や在宅看取りの経験がなかったり、高度の医療ケアに対応できないステーションもありました。ただ、そこで立ち止まるのではなく、一緒に勉強しながら新しいことを吸収し、地域のニーズに応えることで今では多くのステーションが24時間、重症者への対応が当たり前できるようになっています。これもひとえに訪問看護ステーション連絡協議会のご尽力の賜物と考えます。今後も一緒に在宅医療を支えていければ幸いです。

真備町で災害対策を考える

～滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会の現地視察から～

平成30年7月の西日本豪雨から1年の8月2日、滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会理事外6人が現地視察に来られました。訪問看護ステーションあんど・そーるの訪問看護ステーションの皆様から、発災時や復興の状況を聴かせていただき、災害対策を語り合いました。

熊野神社、小田川堤防(写真1)では、甚大な被害や避難の状況等知りました。介護老人保健施設ライフタウンまびの屋上から緑鮮やかな稲を眺め、鉄筋剥き出しの居室とのギャップに心が痛みました。

まび記念病院村上理事長から発災・復旧・復興プロセスを伺い(写真2)、訪問看護師は「被災した職員と被災していない職員が役割分担しながら訪問看護を続けた」ことを語られ、保健所保健師からは平時からの訪問看護との連携について伺い、現場で学ぶことの意味を痛感した1日でした。



訪問看護師による訪問看護等理解促進事業

事務局 藤原 康子

平成30年度から地域住民や学生等を対象に、訪問看護サービスや訪問看護の仕事についての理解の促進を図ることを目的として、セミナー・交流活動・催事へ訪問看護師が出向き、訪問看護の実際ややりがい等訪問看護師の魅力を発信しています。

昨年度は、セミナー8回378人、催事9回599人の参加が得られました。年齢層も学生から高齢者まで様々であり、多くの方々に訪問看護について魅力発信ができました。

今年度もこの事業を実施しています。県内の様々な催事にブースを設け、訪問看護ステーションの方々に協力を得、事業を進めていきたいと考えています。また、セミナーでは開催した際、「病院だけでなく、地域の中で活躍することはやりがいがあることがわかった。」等感想がありました。大学・看護学校等で、学生等にしっかりと情報発信していきましょう。



小児訪問看護研修会・交流会・相談会の紹介

事務局長 岡村 忠彦

医療的ケア児は県内に385人いますが、半数のステーションは小児訪問看護に対応していないことから、医療的ケア児に対応できる訪問看護師とステーションの増加を図るために昨年度から標記研修会等を開催しています。

こどもの療育に欠かせない内容(在宅小児看護の知識・技術、社会保障制度、在宅移行支援、教育等)を講義・実習で行いました。受講後には「不安が強かった小児訪問が今は少し楽しみになった」等の声がありました。また、保健・医療・福祉・介護・教育現場の多職種が医療的ケア児の豊かな生活支援を考える交流会を開催しました。

今年度は、基礎編4日(実技1日)とフォローアップ1日を計画していますので、多くの方にご参加いただき、充実した研修会にしたいと考えております。

新設のステーション紹介

訪問看護ステーション桑の実 (岡山B)

管理者 吉田 慶子

「訪問看護ステーション桑の実」は平成30年12月に開設しました。母体が山陽病院で主に精神疾患や認知症の方を中心に、「社会で生活をする第一歩」からの関わりをもたせてもらっています。「人が人として生きていく」その中で「自分らしく暮らしていく」。私達は、その人の思いを汲み取りながら不安や悩みを一緒に考えていく看護がしたい。また、地域も大切にしながら住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、皆様のお役に立てる訪問看護を目指しています。

訪問看護の内容は、生活に密着したものが主です。独居や高齢夫婦の方が多いので、常に一緒に何かをしています。一人ではないことを確かめ合いながら関わりをもっています。

関わりの中で、利用者様が私達の事を「なくてはならない存在だ」と言って下さる事がとても嬉しく大切にしていきたいと思えます。利用者様に支えられ自分らしく、人として生かしてもらっていることに感謝しながら、まだまだひよっ子ながら日々、奮闘しています。



かわい訪問看護ステーション (岡山A)

管理者 村松 美佐子

平成30年10月1日に開設した「かわい訪問看護ステーション」の運営母体である医療法人一進会は、今年で「河合外科内科」開業50周年目となります。平成20年以降、通所介護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所を開所し、医療・介護が一体となったサービスを地域の多くの方に利用いただけてきました。

平成30年、隣接地に看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーションを併設したサービス付高齢者向け住宅花の里の複合施設を開設し、地域密着型の強みを生かした地域包括システムの構築に、日々取り組んでいます。

訪問看護ステーションは、現在、看護小規模の利用者の方の支援が主ですが、診療所の患者の方の在宅も含めて活動の幅を広げていく予定です。今後も一進会の理念「笑顔 思いやり 安心して過ごせる中 とともに生きる」のもと、一人一人の利用者の方と向き合い、まごころこめて、看護サービスを提供していきます。

訪問看護ステーションone・room (倉敷・総社)

管理者 尾上 弥永

この度、4月からステーションをオープンさせて頂きました。元々は倉敷市真備町に昨年夏にオープンする予定でしたが、7月豪雨で事務所が浸水し、オープンすることができませんでした。スタッフもほとんどが真備町出身者で、内2名が被災をし不自由な生活を余儀なくされました。避難所やみなし仮設住宅での生活を経験し、今でも不自由な生活をされている方々がたくさんいらっしゃる中で、少しでも心の支えになれるよう、また真備町が1日でも早く以前の活気あふれる街に戻れますよう、精一杯貢献できればと思っています。そして「one・room」1つの部屋から始めようをモットーに、皆様の出会いを大切に日々頑張っていきたいと思えます。

訪問看護ステーションやすらぎ (岡山B)

管理者 赤松 由貴

平成30年1月に新設しました中区中島にある医療法人たかくふう会 訪問看護ステーションやすらぎです。

まだまだ利用者も少ないですが、主治医の先生や多職種の方と連携を図り、病気や障害があっても住み慣れたご自宅、地域で安心して暮らせるよう訪問看護師、訪問リハビリ担当がお宅へ伺いケアさせていただいております。

ご本人やご家族の意思・ライフスタイルを尊重し、こころを込めた看護をお届けできるよう頑張っていきます。

宜しくお願い致します。

朝日医療訪問看護ステーション (岡山C)

管理者 木村 光子

平成最後の年となった、平成31年1月1日から、24時間、365日対応で、北区伊福町に朝日医療訪問看護ステーションを開所しました。ステーションのシンボルマーク、四つ葉のクローバーは「幸福」のシンボルと言われています。自分を大切に思うように、他の人のことも大切に思うこと。自分は必要とされている人間であると常に思えることで、優しい気持ち生まれ、愛が生まれ、信頼関係が生まれてくると思っています。「楽しく、笑い!」をモットーに、ご利用者様、ご家族様、関わって下さる皆様に、安らぎを感じてもらえる大切な時間を提供させていただきたいと、スタッフ一同、こころを一つに、真心こめて訪問させていただいております。

訪問看護ステーションなないろ (倉敷・総社)

管理者 駒 牧美香

訪問看護ステーションなないろは、「その人らしさを支え、それを最大限に生かし、優しさ・温かさ・思いやりを持った看護サービスの提供を行います」を理念にしており、現在小児から終末期、難病・精神疾患などを抱えた幅広い層の利用者様にご利用頂いています。在宅では様々な利用者様を中心に、それらを支える人たちも様々です。「なないろ」は色々な人達が関わることで、在宅で過ごされる日々が、色とりどりで豊かなものになるようにと願って名づけました。療養先の一つを「在宅がいい!」と安心して選択できるよう、サポートができるステーションを目指し、スタッフ共々日々努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

訪問看護ステーションかわさき (岡山C)

管理者 高橋 洋子

令和元年5月1日に「訪問看護ステーションかわさき」が開設しました。訪問看護師7名(1名は皮膚排泄ケア認定看護師かつ特定行為研修修了者)で運営しています。

私たちは、地域の方々が病気や障害を抱えていても、住み慣れた場所で、その人らしい暮らしが継続できるよう、利用者やご家族の意見を尊重した支援をタイムリーにおこなうことを目的に、「あんしん・あったか Kawasaki nursing」を合言葉に、あたたかい心と、安全で安心できるスキルをもってケアしていきます。また、皮膚・排泄ケア認定看護師、特定行為研修修了者により、褥瘡や創傷関連の手当てや栄養状態の調整を行う等、医療ニーズの必要性が高い場合でも、自宅において安楽な生活ができるように、専門性の高いケアの提供をおこないます。



